

■明け方の月に天使は踊る

【登場人物】 高太郎 ・ ちなえ ・ 同 ・ 亜美 ・ 男 ・ 女

幕前。中央に高太郎がいる。手を後ろに組み、おだやかに周りを見ている。ちなえが上手より入ってくる。手にはA4サイズの封筒

ちなえ　いいんですか先生。主役がこんな所で油断してて。
高太郎　おや、見つかったしまいましたか。
ちなえ　同君、探してましたよ。
高太郎　パーティーというのはどうも苦手ですね。お祝いしてくれるのはありがたい
1
のですが、人が多すぎます。私はもともと身内だけの方が……。
ちなえ　仕方ないですよ。今日の主催は出版社なんですから。それなりに盛大にやらないと会社
の名に傷がつきますから。
高太郎　ふむ。そんなものですかね。
ちなえ　あ、そういえば、二三の所々タタして下さって挨拶してませんでしたね。

ちなえ、姿勢を正して。

ちなえ　先生。二の度は受賞、おめでとうござります。
高太郎　ありがと。これも日々、ちなえ君が支えてくれていたおかげです。
ちなえ　いえ。私なんか何もしてませんよ。
高太郎　本当です。感謝しているんです。ありがとござります。
ちなえ　先生にそんなこと言われて、私、何を答えたらいんですか。
高太郎　それは……まあ……どういたしまして、じゃないですか？
ちなえ　……じゃあ……どういたしまして。

高太郎、遠くを見る。

高太郎　早いものですね。ちなえ君が私の助手をするようになって5年ですか。
2
ちなえ　作品づくりを手伝わせて下さりなんていきなり訪ねた私を快く受け入れていただきま
した。
高太郎　快く……。
ちなえ　違っんですか？
高太郎　いえ、まあ、えてして記憶というものは美化されるものです。
ちなえ　カーン。
高太郎　冗談ですよ。ちなえ君がいてくれてとても助かっています。
ちなえ　えー？そつですかー？

ちなえ、煙しきりに照れる。手に封筒を握つてしたしきを照らす。

ちなえ あ、これ。

ちなえ、封筒から原稿を取り出す。

高太郎 どうでしたか？

ちなえ はい、とても面白い作品でした。ひもつとしたら今までの作品の中で一番かもしれません。私的に、ですけど。

高太郎 そうですか。

ちなえ 同君も喜びますよ。今回の受賞に続いてベストセラー間違ひなしです。あ、今、返されても困りますよね。同君に直接渡しちやうた方がいらすか？

高太郎 いえ、それは本にしません。

ちなえ え？

高太郎 それはあなたが持つて下さい。

ちなえ ……どうつうじですか？

高太郎 その小説はちなえ君のもんです。ちなえ君の為だけに書きました。

ちなえ 私の？

高太郎 どうでしょう。受け取つてはもらえませんか？

ちなえ え、あの、……いじんですか？

高太郎 私がそれを望んでいるんです。受け取つてくれますか？

ちなえ はい。もちろん、喜んで。

高太郎 そうですか。

ちなえ ありがとつうじます。この小説を私が一人占めなんてなんだか、バチが当たりそうですね。

高太郎 そんなことありませんよ。ただ、

ちなえ はい？

高太郎 その、おれとつうか、見返りを期待してはいけませんか？

ちなえ いえ、何でも言つて下さい。私で出来ることなら何でもします。

高太郎 そうですか…… では、私と書らして下さい。

ちなえ はい？

高太郎 いきなり結婚だと抵抗もあるでしょうから、その……同棲、とつうんですかね。まあ、そんな所です。実際あなたの仕事は今、私の食事の用意から洗濯、掃除と、家事全般をやつてくれています。ただ、自宅から私の家へ通勤しているのを、家へ帰らず、私の家で寝泊りして下さい、と、こつうつわけです。

ちなえ はあ……。

高太郎 お願ひできませんか？

ちなえ ああ。
高太郎 はい。
ちなえ それは、あの、そのうことですか。
高太郎 はい。……その、そのうことです。

ちなえ 考えている。

高太郎 二面観にはちゃんとお話ししますから。その……。

ちなえ、高太郎を見ている。

高太郎 ダメでしょうか。
ちなえ ……はいですよ。
高太郎 え、ほ、本当ですか。
ちなえ はい。
高太郎 うや、うやあ、早速で申し訳なうのですけど、明日から……。
ちなえ はい。荷物はゆつくり運ぶはいいですよね。
高太郎 はいです。
ちなえ 分かりました。それでは、明日からよろしく願っています。

ちなえ、お辞儀する。高太郎がすくまうと喜びに耐える。

高太郎 ハ……ハ……。
ちなえ は？
高太郎 ハ……。
ちなえ は？
高太郎 ハッ。――！！

高太郎、両手を広げ、大喜び。まぶしいほどの照明。

音楽。榎原敬之「どうしようもない僕に天使が降りてきた」

音楽と同時に幕が上がる。上手には机。机には電話や筆記用具。下手に長いアア。後方は全体的にカゲになっている。中央にドア。中央のドアより同、亜美、男、女が入ってくる。音楽に合わせて6人のダンス。(ダンスは本格的なダンスではない。楽しそうにまわっているダンス。対のペアでフオークダンスのようなものでも良い。なるべく歌詞の言わんとしていることに合わせた動き)音楽だらけのアアアア。同時に照明も暗くなる。高太郎、ダンスの終わりにセンター前。そこにサスのみ残す。

高太郎 愛とは時間がたつにつれて冷めていくものである。ある恋はゆつくりと。また

ある恋は 一瞬で。それは決して悲しい答えではありません。真実なのであります。「一生を共にする夫婦もいるじゃないか」と言う人もいるでしょう。確かにそういう夫婦もいます。では、その二人は 一体何がうまくいったのでしょうか？運命的な出会いだった？恋愛から家族愛へと愛のカタチが変わったから？それとも愛とは関係なしに情性で生活していった？どれも正解のようですが、私は違つちと 생각합니다。いえ、違つちと 思ひたうのです。愛は冷めます。それは真実です。が、愛は決して消えることばないのです。……お答えしましう。愛が長く続く方法。それはどれだけ相手を許せるか、とらうことです。長く 一緒にいれば相手のことが分かつてきます。良し所も悪し所も。そしてその悪し所をどれだけ許せるかが、恋愛を長続きさせる為の真実なのです。私は舌を大にして言ひたう、愛は時間がたつにつれて冷めていく、が決して消えないのです、消えません、消えないで、消えちや嫌、消えるなら、消える時、消えれば、消える、消えてしうする、

7

舞台にアクト。

音楽。Billy Joel 「Where Were You」
司がいる。司、拍手、

司　　「ーじゃないですか先生、」グーですよ、グー。いけますよ。
高太郎　いけますか。
司　　最後の方がわけわかんないですけど、いけますよ。

高太郎　そうですか。いけますか。
司　　エッセイ初挑戦とは思えませんが、
高太郎　ニクイ。ありあまる才能がニクイ。
司　　さすが先生、こんなにハイレベルな内容を期日通りに仕上げるなんて、いつも助かります、
高太郎　締め切りも守れん奴は才能のない証拠です。
司　　ですよ、そうですね、いやー、先生以外にも担当している作家がいるんですけどね、そいつなんて 一週間遅れても平気な顔してるんですよ。しかもたいて面白くないし、少しは先生を見習えつていうんですよ、あ、でもこれはまあ、俺個人の考えなんですけど、ちゃんと期日までに上げられるなら、もつちよつと早く仕上げて、ちなえさんの為時間作つてあげた方がいいんじゃないですか？

高太郎　司君、私は確かに期日までに原稿を仕上げます。が、余裕で書いているわけじゃないんです。書く前に充分に調べ、研究してから書き始めるんです。締め切りなんてないなら私はもつと練りに練つてよりよい作品作りがしたいんです。分かりますか？

司　　はあ……。

高太郎　ちなえ君のことは私なりに考えているつもりです。

司　　ええ。

高太郎　……ちなえ君が何か言つていたのですか？

司　　あ、いえ。はたから見えていて最近二人でゆつくりしていることばないなあと思ひま

8

高太郎 して。
司 そうですか？
高太郎 そうですよ。仕事、仕事って、ずーっと机に座りっぱなしで、
司 ……机には座りませんか。
高太郎 いや、だから、机に向かって、その……。
司 仕事で思っ出しました。頼んでおりました。持ってきていただけたのか？
高太郎 ええああ、アッですね。はい。

司 カベのあるアワーの所へ行こう

司 いや、なくて。仕事のしすぎですって。
高太郎 編集者の人間が作家に仕事をするな、というのも変な話ですね。
司 好きなんですよ、先生が。
高太郎 よして下さり。
司 よして下さり。
高太郎 司君、早目に私の担当から外れた方が君の為です。私は君の期待に応えられそ
司 ともありません。
司 聞いて下さり、意味が通じます。心配でございます。体には気を付けていただかないで。も
うすぐ記念日じゃないですか。

高太郎 記念日？
司 ちなえさんと暮らし始めてから3年目の記念日ですよね？
高太郎 ああ。
司 ああって、まさか先生、忘れてたんじゃ……。
高太郎 心配無用です。私はその日の為に鬼のような仕事をこなしているのです。
司 あ、そうなんですか？
高太郎 照れます。
司 いや、つしせんととかも用意しちゃってたりとか？
高太郎 実は……しています。
司 え？！何ですか、何ですか？
高太郎 知りたいですか？
司 はい。
高太郎 二つちです。

2人、机の方へ。高太郎、引き出しから小箱を取り出す。

司 二、これは？
高太郎 照れます。
司 婚約指輪じゃないですか？

高太郎 照れます。

司 ロマンチックじゃないですか、ドロマチックじゃないですか、超現実主義者の先生がどうしたんです。

高太郎 エッセイで恋愛について調べたでしょう。その賜物です。

司 ちゃっかり実用してるんですね。

高太郎 いいでしょう。

司 いいですよ。

高太郎 バカンスで南の島へ行き、琥珀色の夕暮れ時に、ちぎちぎの音をバグにこの指輪を渡すつもりです。

司 なる程、もしつられてもそのまま海へ飛び込めますもんね。

高太郎 そうそうそう。ふられたあゝつってドブ、ドブ、ドブ、ドブ、チーンって何でやねん。

司 先生、ノリツツにみ苦手ですよ。

高太郎 とにかく、プロポーズ大作戦を実行する為にもあと一本、新作を書いてスケジュールに余裕を持たせたいのです。

司 分かりました。微力ながら俺も協力させていただきます。

高太郎 よろしく願います。

司 はい。

高太郎 では、例のアシを。

同 止る。

同、カギハからホシハを取り出す。

高太郎　「これが……えーと、何でしたのけ。」

強制幻覚催眠剤「ウィンタームーン」です。

高太郎 強制幻覚催眠剤、ウィンタームーン……。説明していただけますか？

同　　「や、俺も詳しくいとは分らないんですけど、この薬を飲めば望み通りのトリップが出来るっていふらしいです。」

高太郎 望み通りのトリップですか。

特殊な薬品を使ってるらしいんですが、調べても全然分からないんです。ただ、噂ではこの薬を飲んでトリップすると、凄いらしいですよ。

高太郎　　凄い？……どう凄いんですか？

同 何と云うか限りなく現実的らしいんです。トリップ中に見える物や味。ニオイ、物を触った感触なんかが。

高太郎　　ほー。トリップ効果以外に何か副作用は？

同 特にないと聞いてますが……。ただ、これは原液なんで、使用する場合には3倍くらい薄めて飲んで下さい。しないと問題が起きますから。

高太郎 問題？

司 ええ。これを原液のまま飲んでしまうと、その……覚めななんです、なかなか。
薄めて飲めば時間の経過によってトリップ効果が自然になくなります。

高太郎 では、もし原液のまま飲んでしまったらどうやって覚めるんですか？

司 意志です。

高太郎 意志？

司 「俺は起きるぞー……」という強い意志が必要なんです。

高太郎 トリップしているのに意志、ですか。

司 はい。……先生、この薬、以前にある大手製薬会社が販売しようとしていたの
に存知ですか？

高太郎 了解。

司 政府からOKが出なくてボツになりました。

高太郎 どうして？

司 トリップの世界があまりにも理想的すぎて覚めるのが嫌になってしまったらしい
んです。

高太郎 しかし、トリップしてることとは眠っているのと同じことだから食事とかしな
くと死んでしまうでしょ？

司 はい。ですから精神的に弱い人、劣等感の強い人は使用禁止にしようとしたん
ですが、そーゆー人ほど使いたがりますからね。

高太郎 なるほど。それで許可がおりなかったのですね。

司 はい。望み通りの夢が見れて、そこで生きられるんですから、無理もありません
けれど。

高太郎 望み通りの夢……ふむ。面白い言葉です。が、何だか使うのが恐くなってきま
したね。

司 先生なら大丈夫だと思いますよ。別に今の生活に不満があるわけじゃないでし
ょうし。それにキチンと薄めれば問題ありません。時間がたてば嫌でも覚めますから。

高太郎 そうですか……。これを薄めて飲むだけでいいんですね？

司 基本的にはそうです。けど、よりリアルなトリップをしたい場合はそれに関係の
あるアイテムを持って、心の中で強く念じながらトリップするんです。例えば「不思議の
国のアリス」の世界へトリップしたければその本を持つことが天国へ行ってみたいなら、自分
のイメージする天国の絵を描いてトリップするとかです。

高太郎 なるほど。

司 後は先生が自分で体験して研究してみてください。

高太郎 分かりました。

司 これ、一応今説明したことをメモしてありますんで。

司、ポケットからメモを取り出し、小皿へのわきに置く。

高太郎 ありがとう。

同 うん。

高太郎 ……ところで、どうやってコシを手に入れたんです。いわゆる 1つの「ヤバイもの」でしょっ。

同 俺の彼女が心理カウンセラーやってまして、ある種の患者にはこのたどりつぷどりをを使ってカウンセリングするらしいんです。

高太郎 ある種の患者。

同 不安や不満からくるストレスで精神的にその……ヤバくなっちゃりそんな人選です。

高太郎 ヤバくなっちゃりそう……ヤバくなっちゃりたら。

同 手遅れです。

高太郎 手遅れですか……恐いですね。

トキよりちなえがお茶を持って入ってくる。

ちなえ あ、うんっや。

同 どうも、お邪魔してます。

ちなえ おもて待ってね。今、同着の分も持ってくるから。

同 あ、うん、ゆっくりしたらねえなっや。早くこの原稿を届けなっや。

ちなえ 大変ね。

同 いえいえ。先生が締め切りさせてくれるんで助かってます。じゃ、先生、失礼します。

高太郎 うん。

同、ちなえの方を向いて

同 おじゃましました。

ちなえ 気を付けてね。

同 はい。

同、出て行きかけて

同 あ、ちなえさん。

ちなえ 何？

同、高太郎を見て、ちなえを見る。

同 10分、

同、トシでちなえをうつへ。

ちなえ 何？

同 まじつちやうもすよね。フヤとつすも、

ちなえ 何なの？

同 いや、失礼します。

同、下手にやる。

ちなえ ……何なの？

高太郎 ちあ？

高太郎、机へ移動する。ちなえ、机の上にお茶を置く。

ちなえ お疲れ様でした。

高太郎 うん。

高太郎、司の置いていったメモに目を通し始める。

ちなえ 初のフツセはちよこと半にずったんじやない？

高太郎 ん？……うん。まあ、そうですね。

ちなえ それなのに締め切り守っちゃったから流石よね。

高太郎 ……うん。

白々とした間がある。ちなえ、つまらなそう。

ちなえ 読んでるトコ、コメ、ね。

高太郎 うん？

ちなえ おつロ、入る？

高太郎 うん。

ちなえ あ、夕飯先の方がいい？

高太郎 うん。

ちなえ 今日は何食ぐたい？

高太郎 うん。

ちなえ ちよこと。

高太郎 うん？

ちなえ 何がいの。ハンバーグ？

高太郎 うん。

ちなえ みそ汁は？
 高太郎 うん。
 ちなえ パスタもいいわね。
 高太郎 うん。
 ちなえ でもぐうたらでもいいかな。
 高太郎 うん。
 ちなえ あ、でも最近ごはん食べてないか。
 高太郎 うん。
 ちなえ じゃ、ドリアにする？
 高太郎 うん。
 ちなえ ドリヤー！！なんちゃって。
 高太郎 うん。
 ちなえ ……うんばかりね。
 高太郎 うん。
 ちなえ 絶対何でもうんって言うの？
 高太郎 うん。
 ちなえ 洋服買って。
 高太郎 うん。
 ちなえ どうか連れてって。

高太郎 うん。
 ちなえ 洗濯ものやってくれる？
 高太郎 うん。
 ちなえ あと、お掃除も。
 高太郎 うん。
 ちなえ ご飯も作って。
 高太郎 うん。
 ちなえ 私って美人でしょ。
 高太郎 ううん。
 ちなえ ……一応話は聞いてるんだ？
 高太郎 うん。
 ちなえ でも、本当は聞いてないんじゃない？
 高太郎 うん。
 ちなえ どっちなの？
 高太郎 うん。

ちなえ、黙る。しばし間。高太郎、メサを机の上に置いて

高太郎 ちなえ君。

ちなえ (嬉しそうに) 何。
高太郎 ちよつと図書館で調べものしてきます。
ちなえ もう閉まってるんじゃない。
高太郎 裏口から特別に入れてもらいます。

高太郎、お茶を 一気に飲みほす。

高太郎 いちそう様。それじゃ、行ってきます。

高太郎、下手に去る。

ちなえ あんややロ、人々が優しくしてりゃつけ上がりやがって、「っん」しか言えないうの、あの
オヤジ!! 男の人って3年もたつとこんな変わるわけ!! かまってくれたのは最初の二年
間だけ!! この2年間はフフイの日々も... フフイの日々!!

高太郎、ヒョコと顔を出して

高太郎 何か言いましたか。
ちなえ いやー、夕日がキレイだなー。

高太郎 今は夜ですけど。

高太郎、去る。しばし間。

ちなえ はららたつー!! ええうい、いつになったら、いつになったら... 何かヤリたいしてやる
〜!!

ちなえ、辺りを色々ぞくぞく。画びょうをマスの上に置くが、しばらく考えて首をこねり、
ちすがにやりすぎと思ひ元に戻す。ふと、小豆に気がつく。

ちなえ 強制幻覚催眠剤、「サイエントラーフ」。

メネを手にする。小声でついつつと読むちなえ。

ちなえ 理想の夢が見られる薬!! トリツプの世界!! 理想!! 夢!! そして愛!! いいじゃない、ロマン
チックじゃない。やつたろつじゃない!! こんな現実が続くのなら何の未来もないわ!! 私は
夢に生きるのよ!! 愛に生きるのよ!! 女ってそういうもんなのよ!! やつたろつじゃな
い!! 飲んでやるつじゃない!! トリツプしたろつじゃない!! ふーんだ!! 高太郎のバカヤロ
ー!!

ちなえ、小じいを高々と上げる。
暗転。コクコクと飲む音。
明りがつく。ちなえが手に原稿を持って倒れている。
しばらくして高太郎が入ってくる。

高太郎

ただ今、戻りました。……おや、そんな所で寝てるとおそろしますよ。……超
熟睡状態ですか、やれやれ。どうやら疲れているのはアタタも同じようですね。いや、
反省してるんですよ、これでも。最近、家のことは任せちゃってますから。それに「トート」も
してませんね。「トート」だって。死語です。照れます。……おや、

23

ちなえの近くに小じいがあることに気付く。中はカッ。

高太郎

ちなえ君、アタタこれ、飲みました、飲みましたね、薄めました、薄めてませんよね。
このままいっぱい飲みましたね、このことはトリツツですね。完全なトリツツ状態です
ね、困ります。困ってしまいます、そんなことこれでは。困ってますからね、いじですよ
ね、困ります。どうしようも。

高太郎、踊る。

高太郎

踊ってる場合じゃありませんよね。どうやら私、かなり動揺しているようです。落ち着
きましよう。(深呼吸 一回)落ち着きました。えーと、そうですね。同君に相談しましよ
う。そうしましよう。電話です。

高太郎、机の上にある電話から電話する。(コール音)
司、下手に現れる。

高太郎

もしもし、同君ですか、私です、。

司

あ、先程はいつも。どうしました。

高太郎

困ったことになりました。ちなえ君がですね、「ウイインタームーン」を原液のま
ま全部飲んでしまったんです!!

司

え!!

高太郎

私が少し席を外している間に飲んでしまったようです。

司

そんな、

高太郎

どうしましよう、。

司

どうしましようって……えーと、分かりました、今すぐ行きます、。

高太郎

ありがと。なるべく急ぎをお願いします。

24

高太郎、電話を切る。

同 とうっ
!!

同、しゃべって「高太郎の部屋」の空間に入る。

同 先生、「大丈夫ですか」^{!?};
高太郎 早すぎるでしょっ!! 「アタタ、今までここにいたんです」^{!?};
同 ちなえさん、大丈夫ですか?
高太郎 分かりません。息はしているようですが……。
同 いくら体に害がなうとはいえ、そんな量を 一気に飲んだら……。
高太郎 アズヤですか?
同 アズヤでしょっ。
高太郎 なんてことだいです、「私がキヤッとしもっておかなければかりに」^{!?}、「とうっしょっしょっ」^{!?};
同 トリッパのとなら彼女に聞くのが 一番です。連れて来ますから。
高太郎 お願いします……。
同 おーい、亜美ちゃん。入っとして「

25

音楽。松浦亜弥 「Yeah! めっちゃホリッ」

亜美、元気よく入ってくる。センターでポーズ。

亜美 はーい、私、亜美ちゃんです。「キヤッ」!!
同 馬鹿でしょっ。
高太郎 キヤッがにじですなあ。
亜美 「ウインタームーン」を薄めずに飲んじやたって聞いたんですけどー。
高太郎 彼女です。
亜美 亜美ちゃん、見てみまーす。
高太郎 よろしくお願いします。

亜美、ちなえの様子を見る。

高太郎 ……とうでしょっ?
亜美 んーとお、大丈夫みたいですよ。
高太郎 そうですか。安心しました。
亜美 でもね。
高太郎 何ですか?
亜美 ヤバイみたいです。
高太郎 何ですか?^{!?}

26

亜美 何か覚める気なりました。。
高太郎 それはどういうことですか。
亜美 不満があつたみたいです。今の生活に。
高太郎 何でそんなことが分かるんですか。
亜美 亜美ちゃんね、心理学習してね、その中に「精神が肉体に及ぼす影響」っていうのがあるの。この人の顔の表情とか、首や肩のこわいかでストレスの度合いが分かるの。ハイハイ。
司 亜美ちゃん、すげー。
亜美 ブイ!!

亜美、大いばりでブイサハイ。

高太郎 日々の生活に不満があつたからというだけの世界を選んだ、と。
亜美 と、思いますけど。
高太郎 何とつたんです!!

高太郎、頭をかかえてシミツクを受ける。

司 先生、気を確かに!!
高太郎 同君、これが正気でいられますか?; ちなみに君がそこまで不満をつのらせてし

たなんてちーつとも知りませんでした。言わなくても分かってくれると思ひきつゝと会話しなかった私の責任です。寂しい思いをさせてしまった私の責任です。悪いのは私なのです。だから狂います。

司 先生、落ち着いて下さい。亜美ちゃん、何とかならない?;

亜美 くぐ。つだけ方法がないわけじゃないよ。

高太郎 本当ですか?;

亜美 うん!!

司 どうすればいいの?;

亜美 この人のというだけの世界に入るの。んで、この人を説得して、起ちてもらつて。

高太郎 そんなSFチックなことが可能なのですか?;

亜美 キヤロ!!

司 亜美ちゃん、すげー。

亜美 すくくすくく寝めて、寝めてく。

司 よちよち。

司、亜美の頭をなでる。

高太郎 あ、あの、ぜひお願いできますか?; おれは何でもしますから。
司 亜美ちゃん、俺からも頼むよ。

亜美 うん。もちろん協力はするけど……この人がこの世界にトリップしたか分からなく。トリップアイテム!! トリップアイテム!! ちなみにあなたの近くに何かありませんか?!

高太郎、ちなみにを見る。手には原稿がある。

高太郎 これは……。

司 何ですか。

高太郎 まだ持っていてくれたのですね……。これは私が彼女の為だけに書いた小説です。これと交換でここに住んでもらったんです。3年前のことです。

高太郎、原稿を開く。

高太郎 この頃はまだ文章も未熟でしたね。……つっつ、笑っちゃいます。

司 読んでる場合ですか?!

亜美 でも、どんなお話なんですか?

高太郎 テレビの報道番組で活躍することを夢みている青年が田舎にいる彼女と遠距離恋愛する話です。仕事と恋の両立の難しさを書いた作品です。テーマは「何かを手に入れる為には何かを失わなければならない」です。

亜美 ふうん。じゃ、そのお話の中にトリップしたのね。分かりました。亜美ちゃんのつづ

具、その「催眠誘導器」!! ジヤジヤ〜!!

亜美、5円玉に糸のついたものを取り出す。

司 亜美ちゃんタサタサ〜!!

亜美 タサタサ〜!!

高太郎 実にお似合いの2人です。

亜美 じゃ、これ(原稿)持って、このお話の世界をイメージして下えい。

高太郎 え!! 私が行くんですか?!

亜美 当たり前じゃない!!

高太郎 あなたが行くんじゃ……。。

亜美 ムムム!! そーゆー無責任なこと言う人は……んー。

司 先生、危ない!!

亜美 ちゃんパ〜ンチ!!

司、高太郎と亜美の間に入り、亜美のパンチを受け止める。その瞬間、後ろ向きにトタトタと下がり、高太郎も一緒に落ちてく。

亜美 まいったか!!

同 先生、危ない所でした。
 高太郎 危ない所って、君今、自分から下がってきませんでしたか？
 同 とんでもない。
 亜美 いっしょに分かった？ちゃんと自分で解決しなくちゃ！！
 高太郎 分かりました。いえ、行けるならもちろん、行きます。勝手が分からなしいので成功するか不安なもので……。
 同 亜美ちゃん、俺たちは一緒に行けなしいの？
 亜美 え？
 同 先生とさなえさんを助けたいんだ。……ダメかな？
 亜美 もー、つかいゝたら優しいんだからー「シロキシロキ」
 同 よせよ。照れるじゃないかー。
 亜美 あの人（高太郎）からかうせりゝぎ料、ふんだくろこね。
 同 ね、……つこことは行けるの？
 亜美 ブイ！！
 同 亜美ちゃん、ありがとうー。

亜美、原稿を高太郎に渡す。
 亜美 はい。じゃ、これ持って座って。片手はこの人の手をにぎって。

高太郎、空いている手でさなえの手をにぎる。

亜美 このお話の世界をイメージして下せう。

高太郎、上目づかいで考えこ、うなずく。

亜美 じゃ、はじめます。このら田玉を見て下せう。

ら田玉を左右くゆらし始める亜美。

亜美 あなたは段々眠くなる。

同 ぐたぐたなせりつだね。

亜美 眠くなるつたら眠くなる……眠くなる……。眠くなる……。

亜美 だいに小声になり、

亜美 グー。

同 お前が寝てごーすんだよ。

司、亜美にうつ込む。

亜美 亜美ちゃん失敗…

高太郎 あ、そーだ！…ちよつと待って下さう。

高太郎、机へ移動し、引き出しから小箱を取り出す。

高太郎 現実のものをトリップの世界へ持っていくことは可能ですか？

亜美 まあ、結局はイメージですけどね。

司 先生、それ……。

高太郎 ええ。

亜美 じゃ、もう一回初めからします。手をつないで下さう。つかりうは二人(そなえ)と亜美ちゃんの間に入つて手をつないでね。

司 分かった。

全員、準備する。

高太郎は片手に原稿、片手にそなえを。司は片手にそなえ、片手に亜美を。亜美は片手に司、片手に田玉を持つ。

亜美 じゃ、始めます。あなたは段々眠くなるゝ。眠くなるつたら眠くなるゝ。段々、段々眠くなるゝ。眠くなるつたら眠くなるゝ。

明かり、しだいに落ちていく。

3人、グーとイビキをかいたら完全に暗転。

異世界空間へ移動するような妙な音と音楽。以下は声のみ。

司 うわゝ、体がゝ…

高太郎 グニヤグニヤです…私このまま死ぬのでしょうか？

亜美 2人とも落ちて着いて…まだトリップの世界でイメージが安定してないから仕方ないですよ…

高太郎 ど、どうすればよいのでしょうか？

亜美 落ちて着いて精神を集中させて下さう。次第に世界と自分が一体化してきますから。

司 あつ、あつちに明りが見えるよ。

亜美 あそーが、一番イメージが安定してるみたい。おそろくあそーに……。

高太郎 そなえ君が？

亜美 多分。

司 行ってみましよう…

女 A、4月1日。B、6月⁶⁶日。C、6月²⁰日。

高太郎、すかさずボタンを押す。

高太郎 うーんと、A、

女 ブツッー。

男 おじい、正解はCの6月²⁰日でした。

高太郎 何とつたんです。

司 先生、

亜美 彼女の誕生日も分からななんですかあ^{!?}

高太郎 冗談ですよ、冗談。

司 世の中にはやがて良し冗談と悪し冗談があります、

高太郎 いや、その……以前は覚えていたんですよ。

男 続いて第2問。ちなえさんの血液型は何？

女 A、A型。B、B型。C、無定型。

高太郎、ボタンを押す。

高太郎 C、

女 ブツッー。

司 先生、

高太郎 何とつたんです、

司 AとB間違えるならまだしもCで、いつからちなえさん、相撲取りになつたんですか

^{!?}

女 正解はAのA型でした、

亜美 どうするんですかあ？3問中2問正解しなうけならぬに。

「ロロロロい」といつ音がする。

男 シヤーン。ピーンダチャーンズ、この問題に正解すれば2段階アップです。

司 何だ2段階アップして^{!?}

亜美 おおー、これは亜美ちゃんに任せなさい、

司 あ、ちよつと、

亜美、強引に高太郎をひかせて席に座る。

男 第3問、ちなえさんの趣味は何？

女 A、一丁うりやう。B、ハトにうりやう。C、小動物逃がし。

高太郎 その中に正解があるんですか!?

亜美 はい!!

亜美、ボタンを押す。

男 どうぞ、

亜美 はらたいらに三千点、

女 づっづー。

司 亜美ちゃん!?

亜美 軽くすぐり?。

司 くすぐり入れてどーするの、

女 正解はAの 一しりとりでした。

高太郎 本当ですか?

ちなえ ええ。

高太郎 楽しいですか?

ちなえ 結構ね。

男 いやー、残念でした。全問不正解。したがって賞品はナシ、とせせていただきます。それではまた来週、

ちなえ、男、女、下手く去ろうとする。

高太郎 待つて下さい。ちなえ君、

3人立ち止まる。

ちなえ ……何?

高太郎 一体どうしたていうんですか。何が不満なんです?

ちなえ 不満?

高太郎 ……仕事が忙しくてキチンと話を聞けなかったことは謝ります。だから戻りましょつ。

ちなえ ……それだけ?

高太郎 何です?

ちなえ 話を聞いてくれなかったからだけってこと?

高太郎 え?

ちなえ 私の話を聞いてくれなかったから、怒ってると思ってる?

高太郎 違っんですか?

ちなえ そうだけど。

高太郎 でしょう?

ちなえ だから、それだけさ。

高太郎 はい。

ちなえ 話を聞いてくれなかつたからだけで、みんなに怒ってると思ってるの。

高太郎 と、いつと。

ちなえ あ、ねえ、話を聞くとか聞かなうとか、そんなのは理由の、に、すまなうの、原因はもっと根本的なことも、分かなう。

高太郎 原因って……。とりあえず元の世界に戻ってゆつくり話しましょ。

ちなえ ヤダ。

高太郎 どうしてですか。

ちなえ ヤダからヤダ。

高太郎 そんなひかまを言わなうで下さう。

ちなえ 嫌なものは嫌だつたらヤダ、

高太郎 感情的にならなうで下さう。もつと冷静に考えましょ。

ちなえ 考えたわよ、この2年間、ずっと考えて、考えて、耐えて、耐えて、頑張っただけど、もーヤダ、もー限界、この世界の方が気楽で楽しもん、考えなくていい、耐えなくていい、待たなくていいもん、絶対つた戻らなうからね。

高太郎 ちなえ君、

高太郎、去りかけたちなえの腕をつかむ。

ちなえ ぢわらなうでよ、

ちなえ、高太郎にヒンタをして去つて行く。

女 ぢわらなうでよ、

女、ヒンタをして去つて行く。

男 ぢわらなうでよ、

男、ヒンタをし、同じりヒンタを渡して去つて行く。

司 ……3連発はキツイっすね。

高太郎 鼓腹がキーっつて。……私が何をしたつていっつんですか。

亜美 気付いてないんですか。

高太郎 え？

司 先生、何で指輪を見せなかつたんですか。

高太郎 いや、そんな暇もなく、チーっんですからね。

司 ズシでしたね。

高太郎 ズシでした。

司 ……それはそれとして……これ、何ですかね？

高太郎 どうしたんです？

司 ちぎきの男の人からもらったんです。

亜美、司からりモコへを受け取る。

亜美 りモコへ……だよな。この数字ってちゃんネルじゃない？あと、巻き戻しと早送り、再生もあるよ。

司 押してみる？

亜美 何押す、何押す？

司 んーまあ適当に。

亜美 じゃあ……巻き戻し、

亜美、客席にりモコへを向ける。ピツという音。3人組、後ろ向きに戻って来る。となえが高太郎の目の前に来たら。

亜美 再生、

ピツという音。

となえ かわらないでよ、

女 かわらないでよ、

男 かわらないでよ、

3人、それぞれ高太郎をどうやって去って行く

司・亜美 おお！！

高太郎 何なんです 一体……。

司 先生、つまりこのりモコへはこのとりつづの世界のりモコへなんですよ、これとなえはとなえさんを探しやすくなります、どこのにいるのかちゃんネルを変えて探せばいいんですから、

高太郎 私に会いたくないはずなのにどうしてそんなものを渡すんでしょう。

亜美 えー？分からないんですか？

司 亜美ちゃん、分かるの？

亜美 うん。……つまりは分からない？

司 うん。教えて。

亜美 ……教えなう。
同 何で。
亜美 どーしても。
同 えー、亜美ちゃんの意地悪っ。

同、亜美の腕を、ひ、ひ、ひとつかむ。

亜美 つかひ、ひのHっす、。
同 ひひひ、ただけだも、ひひひ。
亜美 おやえっ、ひひひ。
同 ひひひ。
亜美 ひひひ。
同 えっ、ひひひ、。
亜美 もっ、ひひひ、。
同 やつたなあ、。

同、勢いを付けて指を出す。亜美、リモコ、でカーン。ど、ど、ど、と押。

同 あっ、!!

3人、再び後ろ向きに戻ってくる。手には何故かアルミ缶の蓋。

同 ものはっつだ。えい。

ど、ど、ど、と押。

ちなえ ちわらなうでも、。
女 ちわらなうでも、。
男 ちわらなうでも、。

3人、アルミ缶の蓋で高太郎の頭を叩いて行く。

同 先生、大丈夫ですか、?
高太郎 ものはっつで、何です。
同 うや、その。亜美ちゃん、亜美ちゃんがりモコ、持ってる、危なからう賞して。
亜美 えー。ヤダ。こんな面白うもの。
高太郎 面白う。
同 いろいろ、賞して。

亜美 や。
司 亜美ちゃんが持つてだつて仕方ないでしょ。
亜美 やだ。
司 貸してつては..
亜美 やーだー..

2人、リモコンを取り合つて。ピリッという音。

亜美・司 あ.....。

3人、後ろ向きに戻つてくる。手には何故か大きなバリエイ。

高太郎 もーえーッちゅーに!!

高太郎、3人を強引に押し戻す。

司 チッ..

高太郎 チツつて言つた..今、チツつて言つた..とにかくそれ、貸して下さい。自分で持つてないと不安で仕方ありません。

高太郎、亜美からリモコンを受け取る。

司 先生、さなえさんと一緒にいた男の人と女の人って....。

高太郎 おそらく小説の主人公とその彼女でしょう。服装が私の書いた通りでしたから。

司 そうですか.....。

亜美 どういうお話なんでしたっけ？

司 亜美ちゃん、何も今、そんなこと聞かなくても、それよりさなえさんを...。

亜美 でも、そのさなえさんは理想のトリップをするのにこの小説の世界を選んだわけでしょう？物語の内容を知っておけばさなえさんの気持ちを知る手がかりになると思つけど。

司 なるほど..先生、お願いします。

高太郎 遠距離恋愛のお話です。主人公が昔からTVの報道番組で成功したいという夢を持つてまして、それをかなえる為に上京するんです。彼女は地元就職し、2人は離ればなれになります。主人公が仕事で成功したら彼女を迎えに来ると約束するのです。そして、その約束の日が来るまで待つ彼女。物語は主人公が上京する日。別れのホームから始まります。

サズがつく。明りの中に男と女。

音楽。Human Nature「Don't say Goodbay」

女 荷物これだけなの？向二つでの着替えとか大丈夫？
男 大丈夫だって。何か足りなかつたら買えばいいだし。
女 そーゆー考えがいけないの。社会人の先輩として言わせてもらいますけどね、
男 お金って予想外の所で出ていくものなのよ。
女 心配してくれるのはありがたいけど、せつかくの時間なんだし、もつと二つね……。
男 お弁当とか買った？飲み物は？
女 だから、..
男 ほんと、世話やけるよね。向二つで一人で大丈夫？
女 お前が心配しすぎなんだよ。
男 心配だよ..
女 え？
男 向二つでちゃんとやってくれるのか心配だし、向二つで浮気しなしか心配だし「アタシが
女 らなくてもキチンとやってくれるか心配だもん..
男 ……そうか。
女 心配だもん..
男 うん。……お前ってホント、素直な言い方できないな。

49

女 ……悪かったわね。
男 ……コメンな。

女、ぐっとう男の顔を見る。しばらく見つめ合った後、

男 コメンな。
女 だって、昔からの夢だったんでしょ。
男 うん。
女 じゃあ、しょうがないじゃん。
男 ……うん。
女 絶対、成功するんでしょ？
男 勿論。
女 ……待ってるから。
男 ……うん。
女 でも、あんまり無理しちゃダメだからね。
男 分かった。……メールするから。
女 うん。
男 手紙書くかも。
女 えー？本当？

50

男 メールより嬉しいだろ？
 女 うん。嬉しいかも。
 男 かもって何だよ。かもって。
 女 ……うん。嬉しい。
 男 じゃあ手紙にする。
 女 楽しみにしてるね。
 男 うん。

「ブルブル」という発車の合図。

男 じゃ、行ってくる。
 女 行ったらっじゃい。
 男 ちゃんと待っていてくれよな。
 女 大丈夫。

二人見つめ合う。

男 行ってくる。
 女 行ったらっじゃい。

プシューっとドアが閉まる音。カタッゴトッと電車が出る。男は暗転。女はいつまでも目送っている。

女 行ったらっじゃい。

女のサスも消える。

亜美 いい出だしじゃないですか。切ないね。切ないね。
 司 切ないね。

亜美、司と手を握り合う。

高太郎 私も結構気に入っている出だしです。
 亜美 それからどうなるんですか？
 高太郎 続きですか？お話をしたいのは山々なんですけど、さなえ君が気になって仕方ありません。もう一度チャリペシしてからでもいいですか？
 司 どうするんです？
 高太郎 このりモコッを見て下さい。１チャネルが光ってます。と、いつにとは今は１チャ

司 ハナルにいるのでしょつ。
 高太郎 ええ。
 高太郎 順番にいつてみよつと思ひます。次はさやハナルです。ちなえ君を膝しに行ちましょつ。
 司 分かりました。
 亜美 はーい。
 高太郎 では移動します。

高太郎、客席に向けてリモコンを押す。ピツとリツ音。ちなえ、お姫様のドレスを着て登場。その後ろから女が入ってくる。ちなえ、両手を広げて楽しそつに回る。
 音楽。Baroques「Purple Day」

女 今日はお姫様 一人でお散歩です。お城での窮屈な時間を忘れ、ひひひと自由に歩くと
 ちが出来るのです。まあ、何と素敵な青空なんでしょつ。ああ、何と空気がおしじじい
 でしょつ。お姫様は嬉しくて仕方ありません。が向こうの方から何やらあやしう人影
 が……あつ「危ない」

音楽。植松伸夫「Battle2」
 男、あやしう格好をして登場。ちなえををいふ。

ちなえ きやー
 女 さあ、大変。お姫様が悪者につかまつてしまいました「さあ、勇者よ。力を合
 わせ、お姫様を助けたすのです」

カミナリの音。それに合わせて照明もツツツッ。

高太郎 ……勇者というのはやはり我々のことでしょつか。
 司 まあ、おそろくは。
 高太郎 ですよ。……では……。この悪者め「お姫様から手を離しなさい」
 男 うまく話にのつてくれてありがとつ。だがな「そう簡単に姫を渡すわけには
 いかん。姫を助けたくば、私と勝負しろ」
 亜美 何を、やつたらうじやないの
 司 亜美ちゃん、話合わせすぎ。
 男 よーし、よく言つた「私との勝負は…「早口言葉対決」だ」
 女 ミニゲーム、スタート

音楽。とりつ「早口言葉のテーマ」
 ちなえがたれ幕を用意。たれ幕に早口言葉が書かれている。高太郎、司、亜美、男、女
 が横 一列になり踊る。早口言葉を言つ者は前へ出てセーターへ。

女 ルールは分かるわね。指示にしたがって旗を上げ下げするんだよ。指示は……旗に写
してもらいましょ。ううですか。
ちなえ もちろん。

男、旗を女に渡す。

女 そちらは誰がやるのかしら。
高太郎 私はこの手のゲームは苦手です。
亜美 ハイ、ここは亜美ちゃんにまかせておま。
高太郎 自信あるんですか。
亜美 ブイ。
高太郎 お願いします。
司 亜美ちゃん、くすぐりはいらならからね。
亜美 大丈夫だって。さあ、勝負。
女 先に3回ハズれた方が負けよ。よしスタート。

音楽。「旗上げゲーム」
ホイッスルにのってゲームが始まる。

ちなえ 赤、あけない。
2人赤を上げてしまっ。フーとっつ音。

男 あの一、そっつっつハイハトは2、3回ゲームをやって盛り上がったからにしても
らえなうでしよつか。
ちなえ まあまあ。次はちゃんとやるから。とにかく2人ともハズレね。じゃ続けて2ゲ
ーム。ううみまっ。

再び音楽。

ちなえ 赤あげて。白あげて。赤あげなうで。白あげなう。
女、白をあげる。フーとっつ音。

男 シーハズ。あとハズレでゲームオーバーです。まあ、3ゲーム目、ううね。
再び音楽。

ちなえ 赤あげて。白あげて。赤あげて。白あげたらだ、赤あげない。

2人、合っている

男 OK、。

全員、深いため息をつきつつ、拍手。

男 では続きをどうする、。

ちなえ 赤あげて。白あげて。赤あげたらだ、白あげて。白あげたらだ赤あげない。

女、赤をあげる。フーという音。

女 しまったあ、。

男 ゲームセット、。フーという、。

亜美 やったね、。

亜美、同や高太郎と手を合わせて喜ぶ。

司 しかしお前らどうでも良いけど自分の得意なもので勝負しろよ。自分から挑んで負けてどうする。

高太郎 さ、約束です。姫を、いえ、ちなえ君を返してもらいましょっか。

女 んー。そうしてあげたのはやまやまなんですけど、前のチャネルではソッチが負けてるから、これでチヤクコです。

高太郎 そんな、。

男 ちあ、二二で問題です。これに正解すれば本当に姫をお返しします。

高太郎 ……いいじゃない。

男 ちなえさんの足のサイズは何センチでしょうーか。

女 A、99センチ。B、9999センチ。C、99センチ。

高太郎 むむむむむ……。

司 先生、なぜ悩むんです。

女 分かりにくい場合は、

女、両手でスキ間を作って

女 11のくがらが30センチと考えると目安になるんじゃない。

司 先生、。

高太郎 Bです、。
女 ブツブツ。
男 あんたの物の感覚はどうなってるんだ、。さとりあえず不正解。したがってさな
えさんのお返しは、とせせさせていただきます。
女 さあ、大人しくさらわれていただきますよ……う……。

さなえ、怖く顔で高太郎をみつめている。

女 あ、あの……。
さなえ 早くさらって行きなさい。私が切れる前に。
女 は、は、。
男、女、さなえの面わきに来る。さなえ、女と男の腕を力づくと持つ。高太郎
を睨みながら。

さなえ たーすーけーてー。つーれーさーらーれーるー。たーすーけーてー。

さなえ、ズルズルと女と男を引き連れて去って行く。残された3人、しずを
うごめかす。

司 に、にえー。
亜美 怖かったよー。怖かったよー。
司 おー、よしよし。怖かったね。もう大丈夫だからね。
高太郎 さなえ君は妖怪ですか。
司 先生が悪いんですよーが。頑張れば頑張るほど怒らせてどうするんです。
高太郎 ……反省。

うなだれる高太郎。

高太郎 私はとにかく話を聞いてほしいんです。だから焦っているんです。

高太郎、ハッという顔をする。

高太郎 そうですね……。さなえ君にこんな気持ちにさせたいんです。

3人、沈黙。

司 さなえさん、探しに行きますか？

亜美　ちょっと待って。もう少し落ち着いてからの方がいいんじゃない？体力的にも、精神的にも。

高太郎 そつですね・・・。

亜美　じゃあ小説の話の続き、聞かせてもらえますか？主人公が上京して、女の人だけが田舎に残されて、その後どうなったんですか？

高太郎 上京した青年はT V局で働きます。バラエティ番組のA Dからスタートです。慣れない土地、慣れない環境でも夢を掴むために頑張って仕事をするんです。A Dの仕事は過酷を極め、アパートへ戻れる日は週に一回くらいのもんです。一日の睡眠時間は3・4時間。それでも青年は頑張りました。

亜美　体壊しちゃいそうですね。

高太郎　幸い青年の長所は体が強いことでした。ただ、青年の中で気掛かりなのは、あの日、駅のホームでした約束がなかなか守れないことでした。

亜美 約束?・・・あ、手紙を書くつてやつ?

高太郎　そうです。ホロホロに疲れた体で青年は少しの空き時間に一文ずつ手紙を書いていきます。少しずつ。一文ずつ手紙を書いていきます。そうして出来た最初の手紙は、青年が上京してから半年の時間をかけて完成したのです。

女、手紙を持って登場。サズが入る。

音樂。

女 手紙、遅くなってごめん。やこと送ることが出来ました。こちの生活は分からないことだらけで大変です。A Dに人権はありません。馬車馬のように働かされます。僕が知っているだけでも¹⁰人の人が辞めていきました。当然その分の仕事量がこちに回ってくるので、今くらいことになっています。あ、でも大丈夫。知ってると思うけど、僕は体だけは丈夫だから。風邪もひいてないし、いたって健康です。それに今残っているA Dは僕と同じように何らかの夢を持っている奴らなので、そいつらと一緒に仕事できるのは楽しいです。この間の「クイズでホシ」は見ましたか？あの番組のタイムキーパー僕がやっています。今はバラエティ番組ばかりだけど、いつか報道に回って世の中の真実を伝えていきたいと思います。僕の近況はこんな感じです。よかったら返事ください。だぶん、それが今の僕にとって何より元気の源になると思います。

女6才ノカ渠ニル。

仕事の合間をぬって必死に書いた手紙なんじゃないかね。

高太郎　そうですね。手紙の内容にはかなり気を遣いました。

同 当然彼女も手紙を返すんですよ？

高太郎　もちろんです。が、女性側の手紙の内容は小説には書きませんでした。

፲፭ ንግሥት ኢ.

高太郎 この小説は私の気持ちをそそぐ君に届ける為のお話です。女性側の手紙の内容は私には分らないのです。私に分かるのは青年の気持ちだけです。

同 なるほど。

高太郎 しかし彼女は確実に返事を書きました。青年はその手紙に元気と力をもらい頑張ります。二通目の手紙は、それからさらに半年経ってからでした。

女に再びサズがつく。

女 久しぶりです。お元気ですか？手紙だと何故か敬語になってしまいます。不思議なものです。僕は体は元気です。職場の皆も僕の健康さには呆れているくらいです。ただ、最近スうつといつか、悩んでいます。一体あとどれだけの時間を費やせば希望の番組を担当することが出来るのか。上京して一年。ずつと報道とは関係のなら仕事をしていきます。もちろんぐにエイトだつて作り手は真剣です。楽しくないわけではありません。ただ、僕には夢があるのです。上京したての頃、夢のおかげで逃げ出さずにすみましたが、今はその夢が僕を苦しめます。夢と現実のギャップが苦しいです。久しぶりの手紙なのに愚痴ばかりでしぬんなぞ。そちらはどうか？悩みはありませんか？良かったら返事ください。待っています。

女のサズが消える。

同 分かる。分かるな。夢と現実のギャップが自分を苦しめる。

亜美 つかりつにもそんなことあるの？

同 そりゃああるぞ。つうイト持って仕事してれば誰だつてあると思つけど。いつゆつのごと男特有の感覚なわけじゃないよね？

亜美 うん。仕事つて限定しちゃつとケースバイケースかな？人によると思つて。

同 そんなもん？

高太郎 小説の中では、この手紙と手紙の間にサツストーリーが入るんです。お互いの生活が。電話で話をするシーンや、彼女が連休を利用して東京へ会いに行くシーンもあります。そして二通目の手紙からちよつと半年後、彼女に三通目の手紙が届きます。

女にサズがつく。

女 久しぶりです。何か半年ごとに手紙を送ってますね。四通目の手紙はもう少し早く送れるといけど。僕は相変わらずぐにエイト番組の制作です。でも、もう少ししたらADから一つ上ぐいけるかもしれません。今、企画会議に上がつてゐるのは「都市伝説を解明せよ」という特番です。昔ながらの口裂け女やツチノコなんかを追つたりするチームもあるようです。僕が担当する都市伝説は、最近新宿で噂になつてゐる魔女の存在です。噂ではお金を払えば願いの叶つ「何か」をくれるらしいです。まだこれから情報を集めるの

で詳しい事は分からなけれど、もし会えたらお金を払って、その願いの叶う何かとやらを買おうかなと思っております。結果はまだ報告します。そちらは変わりありませんか？良かったら返事ください。待っています。

女のサズが消える。

亜美 魔女が出てくるんですか？

高太郎 はい。

亜美 急にツァンタジーが入るんですね。

高太郎 さなえ君、ツァンタジーが好きなんですよ。

亜美 へー。

高太郎 さあ、続きはまだ後でどうこうにして、そろそろさなえ君を探しに行きましょう。

司 そうですね。

亜美 あ、その前に 一つだけ。

高太郎 はい、何でもしよう。

亜美 あまり彼女を追い詰めることのなりゆきに気を付けてくださいね。

高太郎 え？

亜美 さなえさんで、かなりキチンとした方ですよね？

高太郎 ……ええ。

亜美 家事なんかも完璧なんじゃないですか？

高太郎 そうですね。

亜美 お邪魔して部屋を見たとき思ったんです。仕事机は散らかっているのに、それ以外のところは掃除が行き届いていました。

高太郎 はい。

亜美 さなえさんはおそらく小さい頃から何でも器用にこなせるタイプだったと思います。そのことに自信とプライドを持っていたんじゃないでしょうかから、甘えることが苦手だったと思います。

高太郎 かもしれませんね。

亜美 でも、初めて甘えることのできる存在ができた。

司 先生ですね。

亜美 さなえさん今、頭の中がグチャグチャだと思います。甘えられる存在なのに、甘えられない。迷惑をかけたくないのに、実際には迷惑をかけてしまっている。それこそキツツの苦しみですよ。キチンとした性格で責任感の強い彼女はどんどん素直になれなくなるかもしれません。

高太郎 そんな。私は迷惑だなんて。むしろ悪いのは私の方です。

亜美 大切なのは…さなえさんがどう思っているかです。

高太郎 分かりました。…ありがとございます。

司 先生、行きましょう。

70

女
男

本気でいゝなをすれば相手の鼓膜が破れます。
ちなえスーパァッ

ちなえ、お腹を出す。

女
男

その気になれば三人前だつてぐろりと食べます。」「家庭のエンゲル係数上げまくり。
ちなえづーッ

ちなえ、両手の人差し指で頭を指す。

女
男

只今、思考停止中。
ちなえホッ

ちなえ、両腕を広げ、足を開いて大の字になる。

女

只今、お肌が下降中。

ちなえ、肌を気にする。

女
男

その他、様々な性格もインプリットされており、通常モードのほかにご女チックモード・セ
クシーモード・プツッインモード・落ち込みモード・うりあえず笑つとけモード・やちぐれモ
ードなどが自動的に目まぐるしく切り替わり、あなたを安心させません。
そして2009年バージョンの特別機能として目玉のちなえプリント

ちなえ、片足をぐいと前を出す。

女

とっても高性能なちなえプリントは、ちなえイヤーとの連動で、その凄さを発揮します。」「
うして手を叩くと、何と

女、手を叩く。その瞬間、反復横跳びを始めるちなえ。

女
男
女
男
女
男

反復横跳びを始めるんです。

これは凄じ

もう一度手を叩けば止まります。

うーっとは、手を叩くまでずっとやり続けるわけですね。

はい、そうですね。

じゃあ、しばらく見てまじまじ

全真じばらくちなその反復横跳びを見ている。疲れてくるちなは。

男 気のせいかな、だいたい動きが鈍くなってきましたね。
女 後が怖いので、この辺でやめときました。

女、手を叩く。

女 さあ、これだけの機能を兼ね備えた真柴ちなえスぺシャルグレードマークII水陸両用タイプ2009年バージョン。実は大人気のため、一台しか提供できません。

男 当番組としても頑張ったのですが、一台確保するのがやっとでした。

女 お譲りは、ご連絡いただきました先着順というようにさせていただきますので、ご了承ください。ご連絡先は裏々、シモンというおなじみのです。

女、指で何もなり空間を左右させる。

女 深夜ですので、お掛け間違いのなりようをお願い致します。

男 それでは受付スタートです。

男・女 裏々、シモンという。

男と女、片手を上げてガッツポーズ。

司 先生、電話、電話。

高太郎 ええ、電話なんて持ってませんよ。

司 だって早くしないと先着順ですよ。

高太郎 この辺に公衆電話はありませんかね。

亜美 これでもいいんじゃないですか。

亜美、リモコンを指差す。

高太郎 これですか。

亜美 トリツの世界なんですから、意思の力で何とかなりますよ。

司 亜美ちゃん、ナイス。

亜美 ブイ。

高太郎 それでは早速…。

高太郎、リモコンで電話をかける。コール音。

女、携帯を取り出して出る。

女 はい、裏々シイ。はい々です。

高太郎 あ、あの、今やっていた真柴ちなえの2009年バージョンなのですか。

女 おめでとーございます。..あなたが一番です..

携帯に聞き耳を立てていた同と亜美、喜ぶ。

同・亜 やったあ..

高太郎 そ、それでは、ちなえ君を譲っていただけるんですね。

女 はい。裏々シイ。はい々としては問題ございません。

高太郎 と、申しますと..

女 2009年バージョンは、とても高性能でございまして、厚生省より当商品に人権が与えられております。

同 厚生省..

亜美 人権..

女 ですので、お客様が希望されましても、商品の方でもお客様を気に入るかどうかが.....

高太郎 そんな..

男 それではお客様、どうぞこちらへ。

男、高太郎と同と亜美を誘導。6人が同じ空間になる。

ちなえの前に通される三人。

女 ちなえさん。こちらのお客様があなたを希望しておりますが、どうですか。

ちなえ、じいじと高太郎を見て、うとうと目を回す。

女 お氣に召さならようですね。

高太郎 何が、何が気に入らないんですか..?

ちなえ、近くにいる男に耳打ちする。

男 何かイヤ、とのことですよ。

高太郎 あ、もっと具体的にお願いしますか。

ちなえ、男に耳打ちする。

男 つまらないう男だからイヤ、とのことですよ。

高太郎 つまらないう..

同 先生はつまらなくなりましたよ..オヤジギヤグで、ツカヘ、ツカヘ、笑いをとれますよ..

男 つまらないう男だからイヤ、とのことですよ。

高太郎 つまらないう..

同 先生はつまらなくなりましたよ..オヤジギヤグで、ツカヘ、ツカヘ、笑いをとれますよ..

亜美 例えば？
 司 ……え？
 亜美 例えば？
 司 お前はどっちの味方なんだ。
 亜男・女 例えば？
 司 例えは、えーと、なんでしたっけ。先生、お願いします。
 高太郎 え？
 司 ほら、大爆笑だったギャグあるじゃないですか、..
 高太郎 大爆笑？
 司 アしですよ。もう老若男女関係なく、ズバリ知らずの爆笑。一発ギャグがあつたでしょ、..
 高太郎 司君、ハートル上げるのやめてもらえますか？
 司 だって、つまらないって言われてるんですよ。男として悔しいじゃないですか、..。一発ギャグで爆笑とつて、見返してやってくださいら、..
 高太郎 傷口が広がるだけのよつな気がするんですが…。
 司 自分に自信を持って、..。このゆつのは勢いが大切なんですから、..。どうかお前ら、..。これから先生が爆笑。一発ギャグやるから、よく見てとけよ、..。先生、します。3・2・1、キョー、..
 高太郎、一発ギャグをやる。
 一問。

男 ま、素人はこんなもんだよな。
 司 やつぱりダメか？
 高太郎 すいません司君。正解が分からないんですけど。

ちなえ、女に耳打ち。

女 ちなみに「茶番はおしまいですか」とのことです。
 司 茶番は言い過ぎだろ、..
 高太郎 分かりました。笑わせます、..。楽しませてみせます、..。そうしたら私のところへ来てくれますか？私の話を聞いてくれますか？

ちなえ、頷き、女に耳打ち。

女 それではルールを説明します。今ここににあるものを全て使用して構わないので、物ボケでちなえさんを楽しませてください。シヤッシはちなえさんが行い、楽しければ¹⁰ポイントつきます。ゲーム終了後、ポイントに応じたア・ピールタイムが与えられるので、その時に頑張つて想いをうつしてください。
 亜美 それって私たちもチャレンジしていいの？

司 亜美ちゃんて本道にやっついでるやーだよね。
 女 はい。構いません。チームで楽しませて頂きたい。
 亜美 よっしやー..
 女 それではさねえさん、スタートの合図をお願いします。
 ちなえ わらわを楽しませるのじゃ。モーター、スタート..

音楽。Doop「Sidney Berlin Ragtime Band」
 高太郎・司・亜美、三人で会場にあるもの全てを使用して物々々をする。
 お客さんの物を使っても良い。
 やる前は「はら..」と根を出してから物々々する。
 ちなえ、楽しもうのには¹⁰ポイント。つまりならもうは「次..」と指示する。
³⁰ポイントほど溜まったところで、男が「はら..」と手を上げる。

司 何でお前が参加するんだよ..

男、物々々をする。

ちなえ マイナス⁵⁰ポイント..
 高・司・亜 くらゝ..
 ！！

高太郎 何てことやがるんですか..
 亜美 あれだけ自信満々に出てきたのに...。
 女 終了..
 司 ええ..
 女 トータルポイントは……マイナス²⁰ポイントでした。

ちなえ、女に耳打ち。

女 えー、ちなえさんが頑張った！亜美として⁴⁰ポイントくれました。ですので、最終ポイ
 ントは²⁰ポイントです。
 亜美 ²⁰ポイントで何秒のアピールタイムがもらえるんですか？
 女 ¹⁰ポイント 一秒に換算します。
 高太郎 てことは一秒で何を話せといるんです？..
 女 じゃあ、やめますか？
 高太郎 やります..やりますから..
 司 先生、落ちてきてぐぐぐと伝えてください。
 高太郎 分かりました。
 女 それでは「ちらぐとつぞ」。

女、ボックスの中に高太郎を誘導。中へ入る高太郎。ボックスの前の幕を持つ女

女
高太郎
女

ちなえさんへのアピールタイム。制限時間は二秒です。『ヨーイ、スタート』
ちなえ君、あのですね、
終了、

女、幕を降ろす。高太郎が見えなくなる。
女、幕を上げて高太郎を外へ出す。

女

残念でした。これではちなえさんの気持ちは変わらないうちょう。せいかくの注文でしたが、今回は「縁がなかったという」です。

81

女、ボックスの中にちなえを入れようとする。

同

待つてくださる、

音楽。JUJU「明日がくるなら」
ちなえ、中へ入ろうとするが止まる。

同

ちなえさん、これはちよつと酷過ぎるんじゃないですか？本当は先生の必死を伝わりますよね？

ちなえ、ゆっくり振り返り、同を見る。

同

確かに先生はちなえさんの話を聞かなくて寂しし思いをさせたかもしれません。ちなえさんの誕生日や血液型を忘れてしまつていて悲しかったかもしれません。でも、だからつてちなえさんが同じことをしてどうするんですか？先生は今でも変わらなすちなえさんのことを想つてますよ。話を聞かなかったから、自分の誕生日を忘れていたからつて先生の気持ちを疑つんですか？たつたそれぐらいのことで信じられないのなら、それはちなえさんの我が儘じゃないですか？

82

それを聞いた亜美、同の前へ来る。

亜美

たつたそれぐらいのことじゃないもん。

同

え？

亜美

我が儘じゃないもん。

同

亜美ちゃん…。

亜美

ねえ、つかり。もし私が同じことをしたら同じに言つた。つかり、にうてたつたそれ

くらいのことも私にとってはとても大事なことであった。それくらいのことが私を
すくなく不安にさせるんだよね。トートの約束してたのに、つかり、急に仕事が入って来え
ない時あったよね。私だって働いてるから、仕事も大切だって分かってる。だからちゃん
と我慢する。でもね、本当に私に会いたらと思ってるなら、1時間でも二十分でもいいか
ら時間作ってくれてもらいたいんじゃないかな。とか思っちゃって自分もいて……。でもそれ
じゃあつかり、に負担をかけちゃったかなとか、でもそういう希望を言えるのが恋人なん
じゃないかなとか、色々考えてると、どんどん不安になってくる。きつとをなえちゃんも同
じなんだよ。つかり、いっているよ楽しくて、すくなく楽しくて、でも楽しければ楽し
いほど不安になる時もあった…。それを相談するのって我が儘で、不安ですって、寂し
いですって、伝えるの我が儘で、いんな想い、一人じゃ抱えきれないよ。一人じゃ抱えきれない
よ。それなのにそんなこと言うつかり、なんて…。そんなこと言うつかり、なんて…。
でもしゅき〜。

83

亜美、同じ抱きついて泣く。
全員の、すくなくける。

高太郎
亜美
同

好きなんから、
「コメ、ね、コメ、ね。痛かったでしょ、コメ、ね。
うっん、俺の方、そコメ、ね、不安だったんだね、不安な思いをさせちゃったんだね、

亜美
同

寂しかったんだね、
寂しかったよ、
お、よ、よ。寂しかった、寂しかった。

同、亜美の頭を撫でる。
ちなえ、ゆっくり亜美に近付けしていく。目の前まで来て

ちなえ
亜美
ちなえ

ありがとう。
あ…。いえ…。
私は…。

ちなえ、何かを言いかけてやめる。再びボックスの方へ移動する。

高太郎

ちなえ君…。

振り返らず、ボックスの中に入り鼻を下げる。
男と女、顔を見合わせ、高太郎くぐりと頭を下げ、下手くはける。

高太郎

私はまた彼女を傷付けてしまったのじゃないか…。

84

同 先生、すみません。勝手なこと言つて。
高太郎 いえ。真剣に私たちのことを考えてくれている気持ちは伝わりましたから。
同 そう言つていただけると……。どうします？ちなえちゃんを返しますか？
高太郎 いえ、問をあげた方がらうでしょう。その方がらうですよ。私にとつても彼女にとつても。
亜美 そうですね。……じゃあ小説の続きを聞かせてください。手紙では都市伝説の魔女に会う
高太郎 には。青年は独自の調査、下調べの結果、伝説の魔女は実在することが分かったのです。
魔女の家はごくごく普通のマンションの一室でした。

真ん中のドアより魔女(ちなえ)登場。下手のドアに座る。

男 (首のみ)失礼します。

男、下手より入ってくる。

男 はじめまして。ご連絡しました下ツに伺の者です。

ちなえ、男の後ろを確認。

男 あ、大丈夫です。お約束通り一人で来ました。ご覧のとおり手ぶらです。カメラもスマホ
スコーパーもありません。身体検査されますか？

ちなえ いえ……。結構です。

男 今日はありがとうございます。取材に応じていただき。

ちなえ あなたの誠意ある対応に応えたまでです。

男 恐縮です。ただ……。取材というよりも個人的にお金払つても話を伺いたかつたことが
本音ですかね。

ちなえ 話？

男 はい。あの……噂では願いを叶える「何か」を売つていらつしやるとか。

ちなえ、男の顔を黙つて見てゐる。

男 その……本当にそんなものつてあるんですか？

ちなえ あります。

男 え？

ちなえ あなたの言つてゐるのは、おそろく口づいことですね。

ちなえ、小さな木箱を取り出し、男に渡す。

木箱を開けて、中を確認する男。

男 「これは・・・針。」
ちなえ 「代償の針」です。とても強い魔力を秘めています。
男 代償の針・・・
ちなえ この世の全て、万物は絶妙なバランスで成り立っています。光と闇。生と死。愛と欲。豊
かな人がいれば貧しい人がいるように。そのバランスを崩すことは誰にもできません。
男 バランス、ですか。
ちなえ 例えば、願いや叶えたい夢を器だとしてしまおう。そしてその夢を叶える為の才能や努力、
意志の力を水とします。夢という器に対し、才能や努力という水を入れていき、やがて
器が水で満たされれば願いは叶う。この場合、夢の器と才能・努力の水が同じバランスの
中にあるだけ、という事が出来ます。でも、
男 でも、
ちなえ どんなに努力しても、器が大き過ぎて満たすことができないということもあります。

男、無言で頷く。

ちなえ それでも願いを叶えたい時にこれを使います。足りない水の量を自分の持っている
何かを代償として満たすのです。

男 何かとは？
ちなえ 自分の持っている「何か」です。何でも構いません。願いを叶える為に必要な分だけの代
償であれば何でも。
男 自分の持っているものなら何でも・・・。
ちなえ 自分の願いを叶えるのに、自分以外の力を借りるのであれば、それなりの代償を払え、
という事です。
男 代償・・・。
ちなえ 叶えたい夢があるのですね？
男 ……僕、小さい頃からＴＶの報道番組に参加するのが夢だったんです。頑張って勉強し
て大学に入って、やっとＴＶ局に入る事が出来ました。でも希望の部署に入る事が出
来ずに時間だけが過ぎてしまいました。正直、焦ってるんです。田舎には待たせてる人も
いるし、この後、何をどう頑張れば願いを叶えられるんだろうって。だから……。
ちなえ すぎるような思いでここに来た。

男、無言で頷く。

ちなえ ……購入されますか？
男 え？
ちなえ 欲しいのであればお譲りしますよ。ですがタダというわけにはいきません。「代償の針」

男 が必要なのであれば、それなりのお金をいただきますよ。「れもぐんぐん」ですね。
 ……「ぐんぐん」ですか。
 ちなえ 噂を聞いたものだじゃない。

男、しばらく考える。やがて、ゆづりとお金の入った針筒を取り出す。
 ちなえに渡すようにする。

ちなえ 信じるんですか、私の話を。
 男 ……嘘なんですか。
 ちなえ 聞いているのは私です。

男、針筒を下げる。右手には「代償の針」。左手には針筒。男、動かさず。
 ちなえ、男から「代償の針」を返してもらった瞬間、針筒をちなえに渡す。

ちなえ 「ぐんぐん」ですね。

男、無言で頷く。

ちなえ 使い方は簡単です。たとえば望みを頭に思い浮かべながら体のどこにでも欲しい針で刺

してください。

男 痛そうですね。
 ちなえ 刺す前に差し出す代償を口頭で針に誓ってください。例えば、物を代償にするなら……「車を代償にします」と誓ってから針を刺すといった感じです。

男 差し出した代償が小さかったら。

ちなえ 代償を失っただけ願いは叶いません。…自分のとっとしても成し遂げたい夢を実現させる代償に「それなり」のものしか差し出さないうもりですか。

男 ……いえ……。

ちなえ 気を付けてくださいね。「代償の針」の効果は 1度きりですから。

男 分かりました。

男の携帯が鳴る。ちなえ、出るようにすすめる。

男 はい。あ、お久しぶりです。思えない番号だったのでビックリしました。どうしたんですか？……え？…「ぐんぐん」ですか？…それで容態は？…そんな…。あの、今からすぐ行きます。「ご」の病院ですか？…ええ、分かります。はい、はい。…はい。分かりました。すぐ行きます。

男、電話を切る。

男 すみません、もう行きます。
ちなえ どうされました？
男 田舎の彼女が倒れたって…。よく分からないうすけど、何か病気がしつです。意識もなくて…。急いで行かなう。この間金つたとき、何ともなかつたのに…。全然元気だつたのに、何ともなかつたのに。
ちなえ しっかりなさう。そんな状態で外へ出たら、事故つてあなたまで入院つてことになりま
すよ。
男 はい…ですが…。

ちなえ、左手を男の額に当て、目をこする。

男 え？

ちなえ、ゆっくり目を開ける。

ちなえ 車で行きましょう。私のを使つてくださう。

男 本当ですか？ 助かります。

ちなえ う、言つても、私も一緒に行きますけど。

男 来てくれるんですか？でも、どうして…。

ちなえ 「代償の針」を買つていただいた大切なお客様ですからね。うちはアフターフォローに力を入れているんですよ。

男 ありがとうございます。

ちなえ ち、行きましょう。

二人、下へ下へ去る。今まで二人がいたところのサスは消える。

亜美 えー、まだ試練があるんですか？

高太郎 あるんです。最後の最後に究極の試練が。

司 究極の試練ですか。

高太郎 私はそれを書くことによつて、最大の気持ちさをちなえ君に伝えようとしたんです。

高太郎、客席のほうへ向き、

高太郎 青年は車を飛ばしました。イヤな考えが頭の中に浮かんでは必死にそれを振り払います。体中から血の気が失せるような感覚と同時に、顔だけが熱い不快な感覚を味わいながら運転を続けます。普段は存在すら信じていない神に彼女の無事をお願いしながら運転を続けます。青年が彼女の眠る病室へ辿り着いたのは、連絡をもらつてから四時

間後のことでした。

下手にサスがつく。ソファには女が寝ている。

魔術師が女の額に手を当てている。

男が入ってくる。

音楽。ベット・ミッラー「The Rose」

ちなえ 先生からの病状説明は終わったの？

男 はい。

ちなえ じい家族の方は？

男 彼女の荷物を取りに家へ戻るそうです。その間、見ていてくれて。

ちなえ ……そう。

男、女の隣に来て座る。愛おしそうに乱れた髪を直してやる男。

男 脳に腫瘍ができていますらしいんです。大きさは小指の爪ほどの大きさで、それが圧迫して身体に信号を送れないって。手術しても成功する確率は低いし、うまくいっても半身麻痺は残るだろうって言われました。

シーンとした間。

男 ……あの…魔法で何とかなったり…。

ちなえ すると思っ？

男 しませんよね。…一緒に来てくれたから、もしかしてって、ちょっと期待してたもので。

ちなえ 変に期待させてしまったのなら謝ります。

男 はい、こちらこそすみません。感謝してるんです、本当。車まで出していただいて。

ちなえ 魔女として、力の及ばない現場にいるのはいつも心苦しいものです。

男 ……そうですよね。

ちなえ ですが、彼女を助ける方法はありますよ。

男 え？

ちなえ 魔力で直接彼女の病気を治すことはできません。でも、あなたはそれを可能にするものを持っているじゃありませんか。

男、ゆづくりと木箱を出す。

男 「代償の針」ですか？

ちなえ、頷く。

男 でも、彼女を助けるためにどれくらいの代償を払えばいいのかわかりません。
ちなえ だからここに来たのです。

ちなえ、水晶を取り出す。

ちなえ 覗いてみてください。あなたの未来を見せて差し上げます。
男 え？

男、ちなえの顔を見た後、水晶を見る。

男 これは？
ちなえ 五年後のあなたです。部署異動は二年後ですね。それから三年間、報道番組に携わり、そして五年後、常に真実を追求する番組作りが評価され、報道番組界のカリスマにまで登り詰めることができます。

男 僕がですか？ でも…。

男、木箱をちなえに返せる。

ちなえ 必要ないんですよ。あなたがそれを使って願おうとしたことは。

男 そうなんですか…。

ちなえ このまま努力を続けさえすれば、小さい頃からの夢を実現させることができます。それも大成功という形で。どうでしょう。およそ²⁰数年の努力の結実といったところでしょうか？

男 はい。

男、バツとちなえを見る。頷くちなえ。

ちなえ 充分な代償だと思いませんか？

男 ……そうですね。

ちなえ 後はあなたが決めることです。私、下で飲み物でも買ってきますね。

ちなえ、センターにはける。

男、木箱を見て、女の傍へ行く。

男 ……後は僕が決めること、か…。

男、女の頭を撫でてやる。サズが消える。

司 なるほど、究極の選択ですね。

亜美 えー¹⁹、どうして¹⁹、普通に彼女を助けるでしょー。

司 ²⁰数年の努力だよー。しかも大成功なんだよー。

亜美 じゃあつかりんだつたらどうするのー。

司 そりゃあ、もちろん亜美ちゃんを助けるぞ。

亜美 ホントに¹⁹、ホントに¹⁹。

司 もちろん。今俺が言ったのは、主人公の青年の気持ちになって、仕事人間だつたらの話だよ。例えば…。

高太郎 私のような、ですかー。

司 先生…。

高太郎 その通りですから。

亜美 どちらを選ぶんですかー。仕事ですかー。彼女ですかー。

高太郎 努力は言い換えると我慢と¹⁹言葉にする¹⁹こともできます。夢を実現させるために遊びたい¹⁹ことを我慢して、嫌な¹⁹ことを我慢して、痛い¹⁹ことを我慢して、しんどい¹⁹ことを我慢して、つらい¹⁹ことを我慢し続けるのです。リアルに想像してみてください。²⁰数年の我慢をあつさり放棄する¹⁹ことができますかー。

亜美、目を伏せる。

高太郎 それはある意味、自分の人生を否定することと同じです。人の命の尊さはもちろんですが、夢を持ち、実現させるといっ行為も、また同じように尊いものなのです。

亜美 そうかもしれないけど…。

高太郎 でも…。

亜美 え？

高太郎 それでも答えは決まっているんですけどね。

司 先生。

高太郎 ようやくですが、ちなえ君が何故¹⁹の小説にトリップしたのか分かったよつな気がします。

司 行きますかー。

高太郎 行きましょつ。

高太郎、客席にリモコへを向ける。リッパ¹⁹の音。

台車が下手より登場。台車の上には椅子・壁が乗っている。壁は白く薄い布で作られている。ビックライトを当てれば透けるくらいのもので。椅子にはちなえが座っていて、シルヒットになる。

可能であればボイスチェンジャーを使用。

台車とともに男と女が入ってくる。

女 さあ本日最後のコーナーとなりました。嫁・姑問題からお肌の悩み、病気・事故・怪我の対処方法から夕飯の献立まで、悩みはアル♪とおまかせ。相談しましょっ、そっしましょっ。恋人・旦那の愚痴まで聞いちゃいます。その名も「悩んでならで」

男・女 言っちゃいなー

女 の、コーナーです。

男、パチパチと拍手。

女 えー、今日の相談者は真柴さなえさん。女性。独身。なんでも三年も同棲している彼氏について何かあるようなのですが、一体どんなことがあったのでしょうか。早速聞いてみましょっ。さなえさん。

さなえ あ、それ本名ですけど・・・。

女 ああ。

さなえ いや、「ああ」って・・・。

女 大丈夫です。放送時には名前にして入れますから。

さなえ はあ・・・。

女 それで、さなえさん。三年間同棲している彼氏について、愚痴や悩みがあるとのことですが？

さなえ はい・・・その・・・。

高太郎 さなえ君、さなえ君、あのですね。

亜美 待ってください。

高太郎 え？

亜美 さなえさん、さっきかりんに言われたことで少し心を開いたのかもしれませんが、これはさなえさんからの大切なメッセージです。

高太郎 メッセージ・・・。

女 ……続けてください。

音楽。 Dreams Come True 「未来予想図Ⅱ」

さなえ 彼は幾つも賞を取っている売れっ子の小説家で、私は彼の才能に惹かれました。一緒に住もうと言ってくれた時はすごく嬉しくて、即答でOKしちゃいました。その時はまだ実家に住んでいて、両親がビクビクしたのを覚えています。正直、少し反対されたんですが、説得を続けて・・・私の意志が固いことを知ると、分かってくれました。・・・一緒に暮らし始めて一年は本当に幸せでした。彼が私を想っていてくれるのが分かりました。何も言わなくても、彼が何を考えているのか分かったんです。本当に以心伝心であるんだなって思いました。・・・違和感を感じ始めたのは一年と少し経ってからでした。ちょっとした言葉がなくなってきたんです。

女　ちもつとした言葉……ちもつとい。

ちなえ　例えば「おはよう」とか「おやすみ」とか「いただきます」「いただきます」……。挨拶がほとんどですね。……あとは……「あいうえお」。

女　あうがとつかなくなつたのですか。

ちなえ　はい。ほとんどが「ん」だけで止付けられてしまつた。

女　それはひどい。

ちなえ　あとは会話がなくなる。一方で、多少会話があつたとしても仕事の打ち合わせ的なものが少でした。彼の無言が私を不安にさせて、たまに話す彼の言葉が私を救ってくれました。もう、彼が何を考えているのかわかりません。自信がなりました。この二年間、七百回、毎日寝る前に黙つていふことがあります。

女　それは。

ちなえ　私といふ存在は彼にとって何なんだろつて……。恋人なのか、家政婦なのか、それとも他の何かなのか。私と彼の関係を確立させるものが何もなしから分からなくて。毎晩、毎晩、ずっと同じことを考えていました。ただ、彼はもつ私の為、小説を書いてくれるといはなつたろつて思ひました。私は彼の為、何かをするのは好きです。でも、図々しくかもしれないですけど、尽くしたら尽くしてもらつたつて思ひます。ほんのちもつとしたことなんです。……私といふ存在をキチンと認めて欲しいなんです。

女　なるほど……。大変だつたんですね。この二年間、ずっと耐えてきたんですね。

男　けなげですねー。

女　ちあ、ちなえさんの心の叫びはあの入居したのでしょつか。ここはズグシャルグストの劇場です。

男　本日のズグシャルグストは小説家の法上院高太郎さんです。

高太郎・司・亜美、舞台中央へ移動。

女　ちなえさん、どうされますか。会いますか。このままお引取り願いますか。決めるのはあなたです。

ちなえのシルエツトが消え、ゆくりとちなえが現れる。
高太郎の前へ来るちなえ。

女　彼女の言葉は届きましたか。

高太郎　……ええ。

女　何か言葉をかけてあげてください。

高太郎　はい……。その……。ちなえ君。えーと、あの……。

女　何でもいいんです。言葉をかけてあげてください。

高太郎　はい。……えーと、……その……皮肉なものです。小説家でありながら言葉が出てきません。……同君。

同 はい。

高太郎 申し訳ないのですが、言葉のきつかけをただけませんか。

同 言葉のきつかけですか。えー。そうですね……。ちなえさん。

ちなえ 何？

同 クイズ、出してもらいますか？

ちなえ え？

同 クイズです。先生に関するクイズ。

ちなえ ……え？

同 第一問。先生の誕生日はいつ？

ちなえ ……11月29日。

同 正解です。第二問。先生の血液型は何？

ちなえ ……O型。

同 正解です。第三問。先生の好きな食べ物は何？

ちなえ オムライス。

同 正解です。では最後の問題。最近先生が小説3本とエッセイを書き上げました。いんぱに
 気に仕事を終わらせたのは何故でしょう？

ちなえ え？

同 何故いんぱにギョウと仕事を詰め込んだのでしょうか。ちなみに、今月末から約 1ヶ月間
 は休みますと言われております。

ちなえ、考える。

ちなえ ……分からない。何故？

同 ちなえさん、聞く相手が變いますよ。

ちなえ、高太郎の方を向き、

ちなえ ……何故なんですか？

高太郎、同の方を見る。無言で頷く同。

高太郎 記念日だからです。今月の²⁶日は一緒に暮らし始めて三年目なんですよ。忘れてまし
 た？

ちなえ、首を振る。

高太郎 ちなえ君。不安な思い、寂しい思いをさせてしまったことは本当に申し訳ないと思っ
 ます。あなたのために頑張ったつもりの仕事が、あなたを苦しめていたのですね。

ちなえ 記念日・・・覚えてたんだ。
高太郎 当たり前じゃないですか。
ちなえ 私の誕生日は忘れてたぐせじ。
高太郎 それはその・・・すみません。今回のことで自分がかえりだけ無神経だったか反省しました。
今後はこのようなことはなにもうに氣を付けます。

高太郎、小箱を取り出して

高太郎 こんなタイミンぐで出すのはスルイかもしれませんが・・・。ちなえ君と私の関係を確立
させる証です。

ちなえ、高太郎をいっと思える。
暫く考えた後、高太郎の方へ近付こうとした時、

男 ふざけるなよ。

後方にした男がホッリと呟く。ちなえ、男を見る。
言葉。 「 」

男 なんだよそれ 「ふざけるなよ」

男、前へ出てきて、高太郎の胸倉を掴む。

男 ふざけるなよ 「七百日だぞ」¹⁹ 七百日間、不安や寂しさに耐えて、耐えて耐えて、ずっと
我慢して耐えてきたんだぞ 「アハタなりにこの人の為にとってきただ」と²⁰ この人の気持
ちを考えてないなら、そんなの単にアハタの自己満足だろ²¹。

男、高太郎の小箱を持っている腕を掴んで、

男 こんなもので水に流せれると思っのか？アハタのしてきたことはそんなに軽いことじゃない
だろう。こんなものじゃ償えない。こんなものじゃ報われない。

司 何言ってるんだよ。これは二人の問題だろ？

男 僕は²²・・・彼女を助ける為に代償を払った。²⁰ 数年の過去と願ひ続けた未来を捨て
た。何かを得る為には何かを失わないといけない。なあ、そうだろう？アハタは一度この人
を失った。またこの人を得たいと願うならアハタは何を代償にする？

男、木箱を取り出し、高太郎に差し出す。

男 痛みを伴わぬ反省は同じことを繰り返す。絶対だ。……まあ、アノタの覚悟を見せてくれ。この人を得る為にあ、アタは何を代償にする。

高太郎 さすが私の書いた物語の登場人物ですね。厳しいトコロを突いてきます。……痛みの伴わぬ反省は同じことを繰り返す、ですか。その通りかもしれません。

高太郎、男の顔を正面から見る。

高太郎 勿論、中途半端な気持ちや覚悟で書いた物語ではありませんよ。あなたは、私なんですから。

高太郎、木箱から代償の針を出す。

高太郎 さなえ君を得る為に私が代償にするのは……物語を生み出すこの右手です。

司 先生？

司、高太郎を止めようとする。さなえ、亜美、女、驚く。男はじっと高太郎を見ている。

高太郎 司君、私はね、自分の書いた作品に嘘を付く訳にはいけません。特にこの作品に嘘を付く訳にはいけません。私が今ここで覚悟を見せることが、右手を代償にする。

とが、さなえ君への気持ちを示す唯一の方法であるなら、私は覚悟を決めなくてはなりません。それが私の……私の責任なんです。

高太郎、ゆっくり針を右手に向ける。刺さった瞬間、

さなえ ……待つて。

しかし、間に合わず、右手に針を刺す高太郎。キーン、と短い耳障りな音。
一瞬明かりが変になる。痛みに右手を抱えてぐずぐずする高太郎。

さなえ そんな……。

高太郎 私の覚悟は見ていただけましたか？

男、木箱と代償の針を回収する。高太郎、顔を上げ男を見る。

高太郎、さなえを見て、

高太郎 さなえ君、本当に申し訳ありませんでした。

ちなえ、高太郎のところに走り寄る。

ちなえ どうしてこんなことしたんですか。だって私は、
高太郎 ちなみに君に許しを乞ったんです。
ちなえ 許し。
高太郎 あなたに長い間寂しい思いをさせてしまいました。その罪を償う為です。
ちなえ そんな、だって私は、

いとした顔をするちなえ。

ちなえ ……私のせいですか？

ちなえ、後ずさりする。

ちなえ そんな……。運つのに……。寂しかったから少し困らせてやるって……。こんなこ
とになるなんて思わなくて。コメハなち。私、私のせいで……。運つのに。こんなのも
りじゃなかったのに。こんなのもりじゃなかったのに、
高太郎 ちなみに君、
亜美 ちなみに、落ちて着いてくださり、これはあなたのせいじゃありません、

高太郎 そうです。これは私の償いなんです、
ちなえ コメハなち。コメハなち。信じて、こんなのもりじゃなかったんです、
高太郎 分かっています。分かっていますから、
ちなえ コメハなち。もっと早く素直になつていればよかったのに、私が悪いんです。私のせいで
す、……。そつと……。私のせいで。こんな私なんて…。私なんて、
亜美 ちなみに、駄目、
ちなえ 私なんていなくなればいいんだ、

その瞬間、全てのライトが消える。

暗闇の中、ザーという砂嵐の音。次第に消える。明かりがつく。高太郎、司、亜美の3人
が寝ている。やがて3人が起きる。

高太郎 ニは……。私の書斎。
司 現実の世界に戻ってきたんですか？
亜美 ちなみにさんの精神の爆発に弾き飛ばされたんだと思つ。
高太郎 ちなみに君の身体がありません、
司 亜美ちゃん、これ、どうしてこんな
亜美 分かんない。でも、ちなみにさんはトリップの世界から覚めていなら、ここだけは確かだけ
ど……。まあか……。

司 え？

亜美 実体^①とトリップの世界に行ってしまったのかも。

司 実体^①と？

高太郎 本当ですか？

亜美 だから、確実なことは分かりませんって。でも、考えられるのはそれしかないんだもん。

高太郎 もう一度行つてきます。

亜美 え？

高太郎 もう一度、行つてきます。

亜美 精神が肉体に与える影響を理解してますか？あなた、もう本当に小説が書けないう体なんですよ？

高太郎 はい。

亜美 もう一度トリップして今度はどんなことが起^②きるか……。そして、今はさなえさんが私達を拒絶してるんです。……いえ、むしろ。

高太郎 ……何ですか？

亜美 自分の殻に閉じこもつてると言つた方が正しいかもしれません。

高太郎 では尚更行かなければなりませんね。

亜美 行つてどうやつて助けるつもりですか？今のさなえさんは何を言われても苦痛なだけなんですよ？

高太郎 かもしれませんね。ですからもう一度……。もう一度初めからやり直してみます。私

の素直な気持ちを伝えることから始めようと思います。

亜美 覚悟、ですか？

高太郎 ええ。……私は今まで自分のことを何でも出来る人間だと思つていました。自分の周りで起^③くる出来事は全て自分で解決出来る。だからこそ、周りの人達を支えることが出来ると思つていました。しかし、そんなことはありませんでした。今回の件、私は何一つ自分でやれたことはありません。亜美さんの力を借りなければトリップの世界へ行くことも出来ませんでしたし、司君の力を借りなければさなえ君と話をすることも出来ませんでした。そして何より、今までの生活だつてさなえ君の力無しには有り得なかつたのです。私はとんだ思い上がり野郎です。ですが、終わりにするわけにはいきません。情けない自分を認めて、情けない自分のまま、もう一度さなえ君とやり直したいと思います。そして努力していきたいと思ひます。それが私の覚悟です。

司 先生。

高太郎 司君。助かりました。

司 待つてます。ここから先は、俺らの出番はありそうになうですから。

高太郎 ありがとつ。

司 絶対、さなえさんと一緒に帰つてきてくださいね。

高太郎 ええ。

亜美 一度行つてますから、トリップの世界は頭に思い描けますよね？

高太郎 大丈夫です。

いきますよ。

亜美、5円玉を取り出し、高太郎に催眠術をかけ始める。動きのみ。セリフなし。次第に暗くなる。暗転になる前に下手のみにサズが入る。
ソファに寝ている女。その横に男がいる。小説の中のストーリーへの続き。
音楽。Celine Dion「A New Day Has Come」

後は僕が決めること、か……。

男、女をじつと見る。

そんなの決まってるよな。

男、木箱から代償の針を取り出す。

……彼女を助けてください。僕の成功する未来を代償にします。

男、右手で左手を刺す。痛みにつまずく男。
その姿は未来を諦めて泣いているようにも見える。

上手にサズ。高太郎がいる。男はつまずくまのたまま。

……やりすぎたとは思ってないからな。

分かっています。

女、ゆっくり起き上がる。

ありがとう。

……うん。

後悔してる？

聞くなよ、そんなこと。

コメン。

……してないよ。

え？

後悔なんかしてない。また新しい夢、探すからさ。

うん。……ありがとう。

……うん。

男、女、高太郎の前へ。

男
高太郎 アンタの覚悟はを見せてもらった。でも……僕もこんなことになるとは思わなかったんだ。
あなたの所為ではありませんよ。

女、高太郎の前に来る。

女
高太郎 あ、ひとつだけいいですか？
何でしょう？

女
高太郎 確かに覚悟はを見せてもらいました。でも、その先は考えてますか？
その先、ですか？

女
高太郎 私たちの物語はここでも終了です。この人が自分の未来を代償にして私を助けてくれました。そして、私が目覚めて愛を確かめ合っても終了です。でも、その先は？その後私たちがどうなったかを考えたことはありますか？
……いいえ。

女
高太郎 もしかしたら私たちはこの先、何らかの理由で別れるかもしれません。今、この場では代償を払ってでも助けたいと思う相手でも先のことは分かりません。だって、
愛は確実に冷めていくから、ですか？

女
高太郎 その時が来た時に代償を払った方はどんな気持ちになるのでしょうか？大きな大きな代償を払った結末が別れたこととして、相手を恨むのでしょうか？

高太郎 それは……。

女
高太郎 私は仮に立場が逆だったとしても、やはり代償を払ってこの人を助けたいと思います。そして、結果が別れることになったとしても決して恨むことは無いと思います。相手の気持ちがあつてあれ少なくとも私はこの人を愛した、ということには変わりはありません。

高太郎 愛は決して消えることは無いから、ですね？

女
高太郎 私はね、幸せなんです。何も言わないこの人が、私と同じ気持ちでいてくれるんだなつて分かることが、何よりも嬉しくて、何よりも幸せなんです。

高太郎、ニツコリ笑って

高太郎 そうですか。

女、男の後ろに移動する。

男、何かを考えているが、意を決したように顔を高太郎に向けて。

男
高太郎 どうか、お母さんを。

高太郎 お母さん？

女
高太郎 ええ。私達の物語を作ってくれたあなたはお父さんで、でも、あの人がいなければ物語は生まれなかったから、あの人は私達のお母さんなんです。

高太郎 なるほど。

男 お母さんは今、一人ぼっちでぐすくまってる。何も見ようとしなくて、何も聞こうとしなくて、ただ、ずっと心の中で自分を責めてる。

高太郎 そうですか。

女 助けられますか？

高太郎 その為に来たんです。ちなえ君は今、どこに？

女 砂嵐の世界。

高太郎 砂嵐の世界？

女 そのリモコンの早送りをずっと押し続けてください。全てが終わって何も無くなります。それが砂嵐の世界。

高太郎 何も無い世界……。そこにちなえ君が？

男、女、肯く。

高太郎 分かりました。

高太郎、センターに。リモコンを客席に向けてギョッギョッを押す。
舞台、センターのみさず。暗くなつてから男と女、下手くはける。
ギョルギョルという早送りの音。

ギョルギョルという音が小さくなると同時にザーという砂嵐の音。砂嵐の音も次第にフー
イフーと。

高太郎の後ろに沢山の大きな黒い布で覆われたちなえの姿が浮かび上がる。
ちなえ、目を伏せ、ぐすくまっている。

音楽。 Kelly Clarkson 「Because Of You」

高太郎 ちなえ君。覚えてますか？初めてあなたが私に会いに来た日のことを。

高太郎、ちなえの隣に来て座る。

高太郎 たまたま大学時代に応募した小説が金賞をとり、大学卒業と同時に小説家として本格的にデビューしました。しかしプロとしてのプロシシヤーからあまり良い作品を書くことが出来ませんでした。なかなか注目を集められなかった私は焦り、考えました。何か大きな賞を獲れば知名度が上がり、本も売れるんじゃないかと。それから賞を獲るための作品作りです。審査員が誰で、どんな作風が好きなのかを調べて、小説を書きました。……そんな作品が面白くはありません。私は本当に自信を失っていたんです。

高太郎、一枚黒い布を取る。

高太郎

あなたが私の前に現われたのはそんな時です。「」の作品に感動しました」と大学時代に書いた小説を持って来ましたね。自信をなくしていた私にはこの上なく嬉しい言葉でした。その後、「先生の作品作りのお手伝いをさせてください」とくるとは思いませんでしたが……。

高太郎、一枚黒い布を取る。

高太郎

それから2人でいろんな作品を作りましたね。アイデアが思いつくと直ぐにあなたに話しました。どんな物語でもあなたは真剣に聞いてくれました。ダメ出しは厳しいものでしたが、でも必ず最後には「さすが先生。面白なお話ですね」と言って笑ってくれましたね。私はあなたのその言葉が聞きたくて、あなたの笑った顔が見たくて、沢山、沢山アイデアを考えました。……もつ、賞を獲るための作品作りは止めたんです。

高太郎

さなえ君。私はあなたを思つて気持ちはおの頃と何も変わっていません。いえ、むしろ、もっともつと強い気持ちを持っています。……ただ、目的や方法が間違っていました。

高太郎、指輪を取り出す。

高太郎

これだつてそうです。結婚が目的なわけじゃありません。私はただあなたを喜ばせ、ずっと一緒にいただけなんです。ですがさなえ君に寂しい思いをさせては意味がありませんよね。私は……私はあなたの隣りに居たいし、私の隣りにはあなたが居て欲しいんです。

高太郎、一枚黒い布を取る。さなえの体が現われる。

高太郎

笑ってください。どうか笑ってください。あなたの笑った顔が見たいんです。あなたを喜ばせたいんです。あなたを幸せにしたいんです。私は弱くて情けない男です。でも、あなたを幸せにする役だけは他の人に任せるわけにはいきません。私のすることであなただけが笑っていて、喜んでくれて、幸せになってくれたらそれが私の幸せなんです。私はあなたと幸せになりたいんです。他の誰もいない、あなたと一緒に幸せになりたいんです!!

さなえ、ゆっくり目を開ける。

さなえ

……どうして怒らないの？

高太郎

どうして怒るんですか？

さなえ

小説、書けなくなっちゃった。

高太郎

いいえ。大丈夫です。

ちなえ え？
高太郎 物語は私が作ります。小説は……あなたが書いてください。
ちなえ 私が？
高太郎 今までだつて似たようなものじゃないですか。それとも、もう作品作りは嫌になりましたか？

ちなえ、首を横に振る。

高太郎 ちなみに君。もう一度イチからやり直しましょう。私は、私の想いに努力することを誓いますから。
ちなえ でも、私、寂しがり屋だよ。
高太郎 知ってます。
ちなえ ヤキモチ焼きだし。
高太郎 知ってます。
ちなえ 怒りっぽい。
高太郎 知ってます。
ちなえ まだ迷惑かけちゃつかもしれない。
高太郎 それは私も同じです。でも、努力していきましょう。ですから、ちなえ君。
ちなえ でも私ワガママだし。要領悪い。

高太郎 ちなみに君。
ちなえ キーと何するか分からない。字だつて汚い。役に立てないと思つて。
高太郎 ちなみに君。
ちなえ 世間知らずだし。性格も素直じゃない。
高太郎 ちなみに君。
ちなえ 頭固い、根暗だし、そもそも頭悪い、それに、だつてそれに……。
高太郎 ちなみに君。
ちなえ はい？
高太郎 全部 OK ！全部大丈夫 ！今言ったこと全部大丈夫です ！全部大丈夫ですから ！です
ちなえ ……はい。

高太郎、右手を差し出して

高太郎 ……一緒に帰りましょう。
ちなえ ……はい！！

ちなえ、高太郎の手を握る。
音楽。榎原敬之「どうしようもない僕に天使が降りてきた」

舞台明るくなる。上手に司と亜美がいる。現実の世界へ。

二人、大喜びしながら高太郎達の前へ。祝福する。

高太郎が司に事情を説明している様子。ちなみに仕事机に移動させ、イスに座らせる。

ちなみに、小説を書くついで。

男と女が入ってくる。二人は4人を壇しそこに見つめている。

6人の楽しそうな笑顔。

— 幕 —